

平成10年度園芸学会の発表から

本年度出席した園芸学会から2、3の話題を紹介する。

1 園芸学会近畿支部大会から

去る7月16日、兵庫県民会館で開催された平成10年度園芸学会近畿支部の講演から、園芸作家、桐金裕司氏の「箱庭園芸 (ガーデニングシアターと心の世界) - 園芸療法と福祉への応用」について紹介する。

「箱庭園芸」とは、平成9年から「植物と人とのかかわり」という講義の中で考案した創作的な実験・実践のことで、基本的には、大きめのプランターにガーデニングして、自らそれを背景にドラマを創作するガーデニングシアターと呼べるものである。

この「箱庭園芸」は、心理療法の一つの技術として、福祉への応用等色々な利用場面が考えられる。

このように「箱庭園芸」を通じて生きた世界を創造することで、誰もが自己表現を模索できることが示唆され、さらには、障害者と健常者との交流も可能になるのではないかとしている。
(育種部 宮本芳城)

2 園芸学会秋季大会から

平成10年度園芸学会秋季大会が、新潟大学で10月6日～8日に開催され、花き部会では19課題のポスター発表と96課題の口頭発表があった。

暖地園芸センターでは、最近廃棄処理が難しいことで問題になっているバラのロックウールの代替培地として、有望と思われる無

機培地 (フェノール発砲樹脂) について試験中であるので、ここでは、それに関連した新しい培地の模索についての研究を紹介する。

まず、二村氏ら (愛知農総試弥富農技センター) は、廃棄処理を前提とした5種類の有機培地をロックウールと比較し、いずれの培地でもロックウールよりも生育が劣り、長期的には分解が進み、3相構造が変化する欠点を指摘している。

さらに、多孔質セラミック培地についても検討し、ロックウールと比較すると、収量は同等で品質は上回るという結果であった。その原因として、多孔質セラミック培地では根量が多く、細根の発達がよかったことから、理化学性の安定と気相率の高さ、養液の停滞が少ないことなどを推察している。今後は、この培地に適した給液方法を検討することである。

次に、市村氏ら (茨城県農業総合センター園芸研究所) は、プランター栽培における培地として、ロックウール細粒綿、多孔質セラミック、パーライト、ベラボンを用いて、光合成量、蒸散速度で比較した。その結果、多孔質セラミック、パーライトでは給液後の葉温上昇が速く、植物が微妙な水分ストレスを受け、光合成・蒸散速度が低下していることを検出している。

これらのテーマは環境問題の面からも重要であり、今後、続報が発表されると思われる。

(園芸部 上山茂文)

編集後記

今年の野球は横浜が話題を独占。暖地園芸センターではまもなく1年間の成果のとりまとめに入ります。皆様に活用していただける成果を発表して、話題を独占できたらと思います。

(Y・M)

和歌山県農林水産総合技術センター
暖地園芸センターニュース No.14
平成10年11月20日発行
編集・発行 和歌山県農林水産総合技術センター
暖地園芸センター
〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724
TEL 0738-23-4005
FAX 0738-22-6903